

## 令和6年度 第3回久留米市総合計画審議会（要旨）

### 1 開催日時

令和7年1月14日(火)18時00分～20時10分

### 2 会場

久留米市役所 401会議室

### 3 出席委員（順不同）

委員29名

堺太一郎委員、山崎ケブン委員、石井秀夫委員、山下尚委員、江頭理江委員、  
永松千枝委員、佐田典子委員、柴本喜久男委員、西村英治委員、堀田富子委員、  
元石征吾委員、森山秀子委員、大治太郎委員、片岡靖子委員、矢野彰委員、樋口孝司委員、  
荒井功委員、小田まり子委員、井手悠一郎委員、酒井道宏委員、（代理）石丸修平委員、  
首藤有一委員、矢次恵美子委員、吉中美保子委員、永井洋子委員、翁昌史委員、  
佐藤有里子委員、堀江桃子委員、福田桂子委員

### 4 欠席者

委員2名

穴見英三委員、檜橋裕章委員

#### 【議事次第】

#### 1 開会

#### 2 議事

（1）久留米市次期総合計画基本構想素案について

（2）分科会の設置について

#### 3 閉会

#### 【配付資料】

- ・久留米市次期総合計画基本構想素案・・・資料①次第2（1）説明資料
- ・久留米市次期総合計画体系図・・・資料②次第2（1）説明資料
- ・久留米市総合計画審議会委員分科会構成・・・資料③次第2（2）説明資料

## 【議事録要旨】

### 1 開会

■事務局より、過半数の委員が出席していることにより、会議が成立していることを報告

■事務局より、傍聴希望者について報告

傍聴希望者なし

### 2 議事

#### (1) 久留米市次期総合計画基本構想素案について

■事務局より「久留米市次期総合計画基本構想素案」について資料①を用いて説明

■荒井会長より出席の全委員から順番に意見をいただく旨の説明

≪意見≫

#### ○福田委員

子育てに関する仕事をしている。女性が働く場所がないという理由で福岡の方に行くという意見を聞くので、そういった意味で地域づくりをしたい。

女性と子どもに特化した言葉が多くみられる印象を受けるが、将来的なことを考えると女性というキーワードばかりが出ていくことはどうかと感じた。

#### ○堀江委員

高齢者に関する仕事をしている。全体を見た時に、子どもなどは出てくるが、高齢者という言葉が出てこない。人という枠組みかもしれないが、障害がある方や、高齢者などのいわゆる社会的弱者についても、言葉として足していただきたい。

#### ○翁委員

(3)の「つながり」の部分を専門にしている。全体的に分かりやすい優しい言葉になっている印象を受けた。また、「賑わい」や「暮らしやすさ」というところが、特徴としてすぐ出ており、「賑わい」という言葉をもう一度捉え直す必要を感じた。

「市民活動団体の持続可能な～」と記載してあるが、市民活動団体も多様化しているため、その意味では市民活動団体に限らない広く捉えられる表現があるとより分かりやすくなると思う。

#### ○永井委員

グリーンコープ生協として参加している。久留米市は農業が盛んだと思うが、気温が上昇している影響でとにかく作物が取れない。そのため、今までの経験が全く生かせないという状況にある。新鮮なものが食べられるのは久留米市の魅力だと思うので、今後10年間でどのような対策を打っていくのかを入れていただきたい。

#### ○吉中委員

人口減少を前提としているところは、現実を踏まえているという意味でとても素晴らしいと思う。ただ、策定趣旨やまちづくりの視点にそこを記載してある一方で、それが計画にどう反映されていて、これまでとどう違うのかが少し見えにくいように感じる。中でも、コンパクト及びネットワークの話があって、方向性はいいと思うが、基本計画のところに「公

公共交通ネットワークの充実」という言葉がでてくる。目指す方向として便利な交通体系など充実していくというのは分かるが、現実問題としてバスの運転手の不足があって、非常に厳しい状況に置かれている中で、どのようにこの課題を解決していくのかという意味で、実現性に疑問を持っている。そういった苦しい中で、公共交通や交通環境を維持していくにはどうしたらいいか一緒に考えたい。

#### ○矢次委員

久留米ブランド研究会として参加している。ブランド研究会では久留米市内外の人に久留米の魅力を発信する「久留米まち旅博覧会」という体験プログラムを10年以上やっていて、これまでに1000を超える体験プログラムを実施している。

参加予定でもある「活力魅力づくり」の観点で、基本目標の(9)「久留米にしかない魅力を高め広げる」についてはこれまでもやり続けてきたが、その上で思うのが、「市民が愛着と誇りを持ち」とあるが、自然発生では難しい。愛着を持つ人づくりは大切だと思う。そこで人づくりの視点でいけば(4)「未来を担う人を育む」の中に、例えば社会教育による人づくりとか、人を育むというところをうまく出されていると思うが、「久留米に愛着が持てる育み」といった部分を入れていかないと、(9)でいくら頑張っても難しい。自分自身も20歳過ぎてから久留米に来たが、愛着心を育むというのは難しいと感じる。

久留米の小学校は「わがふるさと久留米」という本を小学3年生で配っているが、非常によくできている。但し残念なのが、データ化されていないため、社会人が読むことが出来ない。中を見ると、10年前から更新はされていないが、社会人が読んで欲しいような内容も入っている。これを社会人として愛着を持つためにも活用していただくためには、(4)で久留米に愛着を持てるという視点での育みというのを入れていただきたい。

#### ○首藤委員

銀行協会から参加している。経済という視点で、久留米市や久留米市民が企業誘致によってお金持ちになることで、全ての施策を実行できるのではないかと思う。特にいただいた資料の中にあるが、出生数が3,000人から2,200人に減っているというところは驚いた。(8)のところで、女性や若い世代に魅力的な雇用や、多様な人材が活躍できる労働環境を整備していくということで、女性が魅力を感じる企業を誘致するといった経済の視点を含めて入れていただきたい。自分自身の経験も含め、是非お願いしたい。

#### ○石丸委員代理(柏木 氏)

福岡地域戦略推進協議会から今回代理として参加している。私共に期待されているのは都市づくりやまちづくり並びに産業振興を始めとする新規事業の推進と思っている。産業振興のところでは、農業のデジタル技術のところを入れているところなど評価したい部分もあるが、福岡県全体を見た時に、久留米市というのはバイオや医療産業は寄せる意味があると思っている。市内企業も外部の技術を取り入れたり、オープンイノベーションの取組をしながら成長していくのが、今後人口を維持しながらコンパクトなまちをつくっていくことに直結するのではないかと思う。

また、脱炭素や再生エネルギーも入れていただいているが、コストと問わずに投資と思っ

ていただき、守りではなく久留米から輸出できるような環境を作るところまで出来るし、その価値があると思っているため、我々も協力したいと考えている。

#### ○酒井委員

久留米高専から参加している。私は福岡市内に住んでいるが、久留米市で働いている。福岡市に住んでいると、博多駅などは普通に歩いていても人にぶつかってしまうという意味で、かなりストレスが溜まる住環境と思っている。一方で久留米駅周辺では誰にもぶつからないのでストレスが無く、住むうえでは福岡市よりも久留米市の方が良いと思っている。

先ほど企業誘致の話もあったが、働く場所は福岡市で、住む場所は久留米市でも税収が維持できるのでいいのではないかと思う。

私が入る予定の部会は（１）（６）（７）となっているが、（１）防災のところで、久留米市は水災害がかなり大きな問題になっている。久留米高専もハザードマップを見ると真っ赤になっていて、逃げ場所がない。かなり水没してしまうので、その部分で対策など検討していったらいいのではないかと思う。

（６）交通インフラと（７）脱炭素については、西鉄さんから運転手が少ないという話があったかと思うが、脱炭素の意味も含めて電気自動車で自動運転といった形で、例えば西鉄久留米駅から JR 久留米駅間をシャトル系で動かすことができれば、運転手がいなくてもできるので、効率的なスマートシティを実現できるのかなと思う。

#### ○井手委員

聖マリア学院大学から参加している。教育の立場にいたので、その視点で計画を拝見しているが、少子高齢化や人口減少の時代を考えていくと、子育て世帯をどうやって久留米に集めるのかという点は特に重要になってくると思う。

方法としては、企業誘致やバットタウン的に久留米に住んでもらうなど、いろんな方法があると思うが、そこを具体的に検討していく必要があるのではないかと感じている。

それから、久留米に対する愛着を持つような教育もやっていく必要があると感じた。大学入学で久留米に来たという学生もいるため、そういう人にも久留米に愛着を持ってもらえるような教育を、子どもだけでなく大学のレベルでもやっていく方がいいと感じた。

#### ○樋口委員

連合福岡北筑後地域から参加しているので、労働者の目線で話をさせていただくが、平日の日中の人口と休日の人口などを意識されているのか、それとも生活者としての久留米の魅力を考えてほしいのかというところをもう少し掘り下げていただきたいと思う。

労働人口というものをに入れていく中で、先程働く場所と生活の場所を分けるという話もあったが、昼間に人がいないまちが賑やかと言えるのかということや、表現が適切かはあるが、女性が活躍するという意味では、身近なところに働く場所がなければ厳しいのではないかと思うので、計画に入れていった方がいいのではないかと思う。

また、久留米市は県内第３の都市というポジションを維持するためにも、皆さんで取り組んでいかないと地域も盛り上がらないと思う。

昔の久留米市は労働人口も多く、昼も夜も賑やかだった。それが昨今では、昼間に歩いて

いるのも車を運転しているのも若い人がほとんどいないように感じる。昼間の人口を増やすということが、働く場所の確保につながるので、そのためにはいかに地域格差をなくすか等が、安心して働ける環境づくりの一步ではないかと思う。

#### ○矢野委員

福岡県防災士ネットワークから参加している。(1) 防災の分野で、市では防災士や防災リーダーを校区から出していただいている。その時は防災士の資格などを取っていただいているが、その後の継続的な研修がない。

近隣自治体では防災士が少ないからというのもあるが、毎月研修をしている。久留米市の方でも2カ月に1回くらいは研修をしていく必要があると思うので、そこは校区と消防団との連携も含めてやっていく必要があると考えている。

また、御井校区の消防団には久留米大学生に入ってもらっている。久留米大学は九州から学生が集まってくるが、就職までお世話すると言って消防団に残ってもらっている。

それから(2) 生活安全のところで、私は子ども会や青少年育成協議会にも関わっているが、SNSに関する事件などが毎日のように起こっているなど、青少年を取り巻く環境が変わってきている。久留米警察署の署長とも月に1回話す機会があるが、その中でも小学校中学校でどのように啓発していくか話をしている。

子どもが少なくなっていて、その子ども達をどうにか育てていかないといけないということ子ども会や青少年育成協議会でも話をしているが、校区の子ども会も成り立たなくなってきたので、どうにかしたいと考えている。

#### ○片岡委員

久留米市地域生活支援協議会の会長と、久留米大学文学部社会福祉学科の教員の立場から意見をさせていただきたい。

まず、働く場ということで先程もご意見があったように、本学の学生達が福岡市や東京に就職をしたがる現状がある。実感としては、久留米の賃金が、福岡市や関東と比べて1~2割程度低い印象があるため、賃金の高い企業に就職を希望するという状況にある。

また、交通の便についても、福岡市に行くときにJRや西鉄、自動車で行くが、乗り換え等含めると1時間から1時間半は見えておかないと福岡市に行けない。その点で、通勤の便がかなり厳しいと思う。また、大学生も西鉄久留米からバスで来る場合も、長い列に並ばないといけないので、1時間半から下手したら2時間くらいかけて通学している。その意味でも、交通の便の問題は非常に大きいと思っている。

私は大阪や京都にも住んでいたが、待たないで電車やバスが来るので、時刻表を見たことが無く、車を持つという概念がなかった。久留米に来てから時刻表を見て乗らないと、乗り遅れてしまうことを知った。交通網は人を呼び寄せる有効な手段だと思っている。

それから、専門は保健医療福祉だが、他市に負けない資源としては医療だと思っている。久留米市には2,000床以上のベッドと、開業医もいて、医療の歴史もある。これは一つのブランディングにもなる。更に久留米大学の歴史の中で、久留米大学医学部出身の医者が全国で1番多いという事実もあり、久留米が3者のまちと呼ばれる所以にもなっていて、これは

久留米市の誇りだと思っている。保健医療福祉を専門にしているので、これが久留米大学に赴任した大きな理由になった。

ただ、非常に大きな技術と歴史を持ちながらも、人材育成が深刻な問題になっている。聖マリア病院も同じかと思うが、人材をいかに確保するかというところでは、賃金や環境、そして技術的な向上が得られるというブランディングが大きなポイントになる。

本来の立場である障害者の問題で言えば、全てに関連してくる。住みやすいまちというのは、医療が予防から治療まで見据えた展開がなされるということだと思う。今まで住んできたところと比べて、久留米市が一番住みやすい。自然もあるが、ただ、遊ぶ場というのがゆめタウンと西鉄久留米しかない印象があって、若い人たちは寄らないのかなと思う。

若い人を呼ぶには働く場が要ることと、子育て世帯には高いレベルの教育を受けられるというブランドは、そこに住みたいになっていく。

他都市では、教育水準が高い学区に引っ越すというところもあるので、そのブランディングだと個人的には思っている。

#### ○大治委員

医師会から参加している。私も大阪で生まれて高校卒業まではいたが、電車で時刻表を見たことが無かった。小学校1年生の時には既に電子切符の自動改札があって、地下鉄だったので、戦前から走っていた。大学は北九州に行ったが、1時間に3本程しか電車が無いというのはびっくりした。

そういう意味では、交通インフラを京都や大阪に近づけるとするのは難しいので、AIを活用した自動運転システムなどを取り入れていかなければいけない。

もう一つが、10項目の基本目標が上がっているが、文字で書いてある。個人的には10年後の久留米市をイラストレーションで是非描いて欲しいと思っている。プロのイラストレーターを入れて描かないと、何がポイントなのかが分からない。行政が作っているのだから、いろんなことが書いてあるが、例えば歴史と言っても、昔プロムナード計画というものに出たことがあるが、どこに行ったのか分からない。せつかく2035年の未来デザイン計画というのがあるのであれば、イラストレーションでこれらのビジョンがどんな形になるという姿を是非描いていただきたい。

それから、水と緑の人間都市という最も基本的な像がどんな像なのか想像が出来ない。ジャングルなのかというと違うし、屋上の緑化は進んでいるわけなので、若者にとって魅力のあるまちを経済や防災、医療など様々な分野で文字に表しても概念図でしかない。

福岡市では天神ビッグバンやルーブルをイメージした地下の美術館など、それは魅力がある。

ベッドタウンでもいいので若者が住みたいと思うようにしないと、水と緑の人間都市と言われても分からない。目で見えるようなデザインを2035年のイラストレーションに落とし込んでいく意気込みが必要ではないかと思う。

もう一つあるのが、(10)のスマートな行政運営で、私はドイツなど各国に行ったが、日本ほどICTなどのエヴォリューションテクノロジーが遅れている国はない。特に久留米市

役所については信じられないくらい遅れていて、デジタルのやり取りが全くできない。これでまちが再生できるのかと思う。

一つのもを送るだけでも個人情報の問題でダメだと言われるが、20年前にはベルギーでも市役所や保健所とはデジタルでやり取りがされているし、何ら問題はないと言っている時代だったにも関わらず、未だにそれ一つをファックスで送るということが続けていること自体が信じられない。保健所にデジタルにしてくれと言っても出来ないと言われる。それでスマートな行政運営に転換できるのか疑問に思う。

世界中がネットワークでつながっている中で、日本だけインフラが脆い。この業界では、新しく開業する方に医師会からファックスを置いてくださいと言っても、そもそもファックスを知らない。固定電話を引かない時代にも関わらず、市役所からの書類はメールでもなく、ファックスや郵送で送ってくる。

そういう発想を是非転換していただきたいと思うし、医療でも若者がやってくるような輝く未来像を是非イラストレーション化してほしい。

#### ○森山委員

久留米市美術館から参加している。就職を機に久留米に来て、石橋美術館のころから働いているが、本当に住みやすいまちだと思っている。たまに東京に行くと若い人達が多いが、彼らの表情が決して明るくない。久留米の人たちは明るい表情をしているのが救いだと思う。特に仕事を引退された方などとても元気だと思う。街に出ると、夕方から集まって飲んでいたりしている姿を見て、元気をもらえる。

今回、総合計画に関わらせていただいて思ったのが、計画自体よく出来ていて、いろんなところに目配りされていると思う。その中で自分にできることは何かと考えた時に、美術館で働いていることを活かしたいと思った。

他の方の意見を聞いていて思ったのが、複数の基本目標があるが、実はこれらはどこかでつながっていると強く感じた。

私は文化に関わっているが、それが久留米の魅力につながっていくし、他の分野でも一つは魅力というところに繋がっていくのかなと思った。大きな目標の中で、自分たちにできることは一部しかないが、それが久留米市のためにもなっていると思う。

以前、石橋美術館が久留米市美術館に移行する時に、久留米に来る楽しみは石橋美術館があるからで、それが無くなったら久留米に来る意味は無いと言われたことがあり、久留米の魅力の一つとして、美術館を存続していくことが使命だと感じた。

(5)の項目にシティプラザや美術館を入れていただいているが、他にも色々な文化施設があるため、どれもが魅力的な施設であり続けて欲しいと思った。

#### ○元石委員

久留米青年会議所から参加している。青年会議所は世界中にある団体で、国内にも約600の団体がある。いわゆる「JC」と呼ばれる団体だが、県外や世界から久留米の方にお客様をお呼びして久留米を堪能していただくが、先程もあったようにデジタル化が進んでいないということをよく言われる。

ただそれはそれとして、我々の狙いとしては、県外から人に来ていただいて久留米の魅力を知っていただきたいということと、久留米にまた来て欲しい、若しくは住んで欲しいというところを踏まえて県外からお招きしているというところはある。

また、久留米市内の方には久留米に住み続けていただきたい、久留米をもっと好きになって欲しいというビジョンをもとに活動をさせていただいている。

その中で、青少年育成事業や防災事業を毎年やらせていただいているが、これを継続していくことが大事だと思っている。ただ、先程から話が出ているように「魅力」や「スマート化」など新しいものをつくっていかないと、これからの人達は食いついていかないと考えている。その意味では、(5)のスポーツというところでは、「つながりができる地域づくりが求められています」とあるが、何のつながりかというところが非常に大事になってくる。例えばまちで新しいスポーツを作って世界に展開していくことで、スポーツの文化が定着することや、人と人がつながって行って、青少年の育成につながっていくのではないかと思う。

また、「魅力ある快適な都市」や「新たな価値」にもつながってくるが、魅力というところでは、歴史や文化を磨き上げるのもあるが、新たな魅力を発掘し、ブランディングしていくことも重要ではないかと思う。

#### ○堀田委員

久留米男女平等推進ネットワークから参加している。前回の会議で、「ジェンダー平等」という表現への変更について要望した部分について検討していただき、施策の中に反映いただいたことにお礼を申し上げる。

関連にはなるが、施策分野と施策の方向性にある「男女共同参画」という表現も、できれば「ジェンダー平等」という表現に変えていただきたい。法令や計画等との兼ね合いもあるかと思うので、そこも踏まえてご検討いただきたい。共同参画というのはそこにいるという意味だが、男女平等というのは女性の人権という意味になる。その意味で課題設定を問うことになるので検討をお願いしたい。

また、人口減少社会でのまちづくりをどうしていくかが今回の重要なポイントで、地方創生は女性の問題と大きく関わっていると思っている。

先日、石破首相が「地方創生 2.0」を宣言されたが、政府機関の地方移転など、国が主体となることがほとんどだったが、その中で、若い女性が働きやすい職場づくりがあった。これは重要なポイントだと考えている。昨年フォーラムで地域企画をやったが、そこで未だに職場での不平等な扱いが残っていることが分かった。その意味では、ここに書いてある「特に女性や若い世代に魅力的な雇用」という表現では若い女性は来ないと思う。

先日のNHKの放送で「なぜ地方は女性が生きづらいか」という内容があったときに、賃金が男性を100%とすると女性は74%しかない。更に東京圏を100%とすると地方は80%しかない。この賃金格差やなかなか管理職になれないという状況がある中で、この表現だけでは難しいと思っている。

もう一つが地域コミュニティづくりのところで、担い手不足があるが、女性の自治会長はまだ9.1%しかいないうえに、役員全体としても19.8%しかいない。男女比率が50%にな

れば人手不足にはならないのではないはずなので、そういったところを入れていかないといけないと思う。

更には地域の慣習・慣行で、これによって地方から出ていっている。先程申し上げた地域企画の中でも、お宮の神事には未だに女性は参加できないといったことや、自治会では男性が中心になっているといった意見が出ていた。

そういった点をこの中に入れていかないと、絵に描いた餅になってくると思う。

最後に、文化芸術のところになるが、久留米シティプラザを作る時に関わらせていただいたが、その時に、大きな視点として久留米市民の文化を向上させるという大きな柱があった。それが、ここでは、「あらゆる人が文化芸術に触れ」となっていて、これでは触れるだけになっている。それだけではなくて、市民合唱の第九のように表現することで、市民の文化を向上するという役割を果たしている。若い女性も文化に触れないと出ていくので、触れるだけでなく表現するのも重要であるということを入れていただきたい。

#### ○西村委員

久留米市人権啓発推進協議会から参加している。皆さんの意見を聞く中で、共感する部分があった。久留米市を本当に良くしようと思うのであれば、一度久留米市を出て、外から久留米市を見た方が良い。そこで日本の置かれている現状を知ることが大事だと思う。

皆さんもご存知かと思うが、先月は北九州の方で中学生の殺傷事件があった。一方で外国では戦争が起きている。世界的にも社会の歯車がかみ合っていないと感じる。

日本でもいじめ・自殺・虐待が数多く起きている。世界にはそれが無い国もある。日本のどこに問題があるかという意味で一度交通整理をして、それから物事を進めていくことが大事だと思っている。

私は人権代表として参加しているが、人権の表現も非常に深く広がっている。ここに来てある皆さんも足元を見て欲しい。人権は皆さんの足元にも必ずついている。生まれてからこの年まで人権はともについてきている。にもかかわらず、普段の生活の中では人権というものを意識していない。障害者も高齢者も全て同じ。

5年後、10年後の人口が減っていくのは分かっていることで、その少ない人口でも久留米市を構成していかないといけない。

私も歯がゆい思いを持っているが、これを今回のメンバーにも共有した中で一緒に進めていきたい。

外に出れば、気が付く点や再発見など、いろんなことが見える。そういったことも共有しながら進めていくのが大事だと思う。

#### ○柴本委員

久留米市地区環境衛生連合会から参加している。久留米は環境の面でとても恵まれていると思っている。リサイクル活動やゴミ処理環境、環境美化などをやっている。幸いなことに久留米には2つのクリーンセンターがあることで、ごみを地区の集積場にもって行けば回収してもらえる。きれいに分別していただければ回収する側も地区の担当の方も仕事がさばけるが、最近はネットをかぶせていてもカラスが全部引っ張り出してしまう。ごみ置き

場をどうにかしたいというはあるが、久留米は道が狭いので、ごみ集積場に物を置くようなやり方が難しい。マナーの問題も含めて考える必要がある。

安全安心な暮らしを守るというところでは、私が住んでいるところは学校が集まっている学園都市だが、まちが衰退している気がしている。大きなスーパーは離れたところにしかないので、買い物に行くのも大変な場所である。県道が通っているが、高架をつくる工事が行われていて、道が狭いので危ないという話を聞くが、県道は幅が決まっているので広げられない。私たちも下校の見守りをやっているが、資格を持っているわけでもないのに、声掛けくらいしかできない。その意味で警察に話をしても、最近では中々話を聞いてもらえない。

お願いにはなるが、バス停でバスを待っていても1時間に1本も来ない時間帯がある。生活する上ではバスは欠かせないので、生活の安全という意味でバスの路線を確保していただきたい。住み良いまちづくりという意味で力を入れて欲しいと思う。

○佐田委員

久留米市民生委員児童委員協議会から参加している。先程パトロール隊の話が出たが、私の息子が小学校1年生の時に同級生の子が車にはねられて亡くなった。これがきっかけになって現在は久留米市全体が登下校の見守りをやっている。ただ、よく考えてみるとそこまでいくのに10年以上かかっているなと思った。

それを踏まえると、久留米市を良くするために、今後10年でどれだけ変われるのかという思いがある。

私自身は、課題を抱える子ども達や家庭、それから不登校に関わっている立場で話をすると、子ども達が自分の意見を出せる場所がない。

久留米市も以前に比べると催し物が増えたという印象はあるので、そういうところに子ども達が出ていけるPRの仕方をして欲しいと思う。

それから、中学校の不登校の子ども達と関わっているが、その子たちは福岡に遊びに行っている。一人で福岡に行ってお店に入って焼き肉を食べてきたという子もいるしすごいと思う。不登校の子は全員が何もできないわけではなくて、自分のやりたいことや伝えたいことがあれば積極的に行動できる子達が多い。一方では何もできない子も実際にいる。家の中に閉じこもっていて、学力を失って、友達関係もなくなっている子もいる。

先日成人式だったが、成人式の出席率も下がってきている気がする。うちは割と人が多い校区だが、それでも3分の2来たらいい方かなと思う。久留米から離れた子達がなかなか戻ってこないという状況を見ると、久留米に魅力を感じている子達がどれくらいいるのかなと思ってしまう。

余談だが、私は久留米ガスのCMが好きで、「久留米が好き」というフレーズが流れるが、本当に久留米が好きになって欲しいなと思う。

子ども達を久留米に留めておきたいと思うのと、大学等で久留米を1回出るとしても、久留米に戻ってきたいと思わせる魅力的な久留米をつくっていくためにはどうしたらいいか考えているが、それには働く場所や魅力的な施設など、少しずつ増えていけばいいのではないかなと思う。

大人の視点で見るよりも、子ども達の視点で少しずつ考えていってほしいと思う。

#### ○江頭委員

久留米市教育委員会の教育委員として参加していて、福岡教育大学の教員をしている。前回の会議の資料からかなり進んで、分かりやすい資料を作っていたなと思っている。

10 個の基本目標の上に目指す状態があって、それから将来都市像を作っていくという説明も良く分かった。

説明の中では別々だったが、10 個の基本目標がうまくつながることでより魅力が出来る。

例えば「楽しく心豊かな暮らし」と「魅力ある快適な都市」などいろいろ繋がっていくと思う。そのため、目指す状態づくりのところで、この 10 個の基本目標をいかに有機的に繋げていくかということ具体的に考えていければと思う。10 個の基本目標の対象とする人の表現を、文脈があるからだとは思いますが、「すべての人」や「あらゆる人」など使われている言葉が変わっている。これは、目標毎で対象とする人が微妙に違うのかもしれないが、最終的には全体ということも含めて整理をかけた方が良かったと思う。

それから、最終的には全体だとしても、女性や若い世代というところは、若い世代の中に女性は含まれているので、ここをあえて分けているのはそこに意図があると思う。その意図がこのままでは分かりにくいと思う。もし表記するのであれば、前回の会議の中でも若い女性に久留米で家庭を持ってもらって、将来的に家族を持ってほしいといったお話もあったかと思う。教育委員としては分かるが、表現が重なっている印象を受けるので、受け入れられる形で出していった方が良く思う。

若い世代に魅力的という部分で、私は市外に住んでいるが、10 年程は頻繁に久留米に来ている。車か JR を使っているが、JR を使うときに時間待ちをする場所があまりない。買い物をする場所や、若い人が待ち合わせでお茶を飲む場所も無いと切実に感じる。民間が誘致されて高層マンションが建つといった話も聞いている。西鉄久留米の方は最近改修もされて人が集まる場所もあるが、JR の方でも是非そういった都市開発を市が主体となってやっていたかと、若い世代にも魅力が出るのではないかと思う。

#### ○山下委員

市議会議員をさせていただいている。

まず(1)「安心安全の暮らしを守る」のところだが、皆さんもご存じのとおり久留米市は毎年のように水害が起きている。私は善導寺町に住んでいるが、毎年床上・床下浸水が出ている状況となっている。昨年の7月の豪雨の際にも過去にないくらいの浸水被害が出た。その意味で、安心安全というのは、全てにおいて基本になると思うので、そういったところに力を入れていきたいと感じた。

それから(3)「つながり支え合う地域をつくる」のところだが、議員になって10年くらい関わりを持っている方がいて、寝たきりの息子を一人で介護しているお母さんで、いろんな話をさせていただいている。その中で、ヘルパーや訪問看護師には来ていただいているようだが、それでも夜は2時間から3時間置きに起きなければならないので、15年間ゆっくり

寝たことが無いとのことで、そういったことから誰一人取り残さない、誰一人孤立させないというのは大変なことだと思う。言うのは簡単だが、困難を伴うことだと思うので、現実にはしっかりと目を向けて総合計画に関わっていきたいと思う。

それから、(6)「魅力ある快適な都市をデザインする」のところで、「中心部と地域の快適な生活空間や利便性の高い公共交通や道路ネットワークを結ばれたコンパクトな～」とあるが、先程西鉄の方もおっしゃられていたように、人手不足やバスとか電車が少しずつ減っていく中で、久留米市としてできるのかと疑問に思った。本当にちょっとした買い物ですら出来ない高齢者などがいる中で、連結や移動などの手段がいいのかそういったところしっかり取り組みを進めていかないといけないと思う。

私はうきは市の出身だが、14年程前に引っ越してきた。西に15キロ程しか移動していないが、妻に聞くと久留米は良いところだと言われるので、いろんな意味で便利なのかなと思う。上を見ると不便さを感じることもあると思うが、良いところにしっかり目を向けながら作り上げることが出来たらと思う。

#### ○石井委員

同じく市議会議員をさせていただいている。私も山下委員と同じうきは市の出身だが、高校を卒業してから就職で久留米に出てきた。たまたま御井町に住んだが、住んでよかったと思うのが、高良山という良い里山があって、これを磨き上げていけばみんなが喜ぶだろうということで、数十年間地域の人や子ども達と一緒に草刈りをしている。そこで紫陽花を育てながらもっと磨き上げて宝の山にしようということを40年近く続けている。

その中で、中腹に昔山城があった吉見岳という場所があるが、コロナ過で子ども達は何もできなかったところ、元々桜の名所だったので、市に苗木を揃えてもらって御井小学校を卒業する子ども達の記念として桜を植えた。その子ども達は桜の木を見に帰ってきてくれるだろうと信じている。

自分の出来るところから久留米の魅力を少しでも発信していきたいということで、今は竹林の整備など広く呼び掛けて、大学生や南筑高校の生徒も手伝ってくれている。議員以外の活動でそういったことをやっている。

ここでは、10個の大きな基本目標を書き出させていただいているが、市民との協働が無いと何一つ進んでいけないことがほとんどだと思う。そこをどのように進めていくのかというところを皆さんと知恵を出して少しでも前に進むように考えていきたい。

#### ○山崎委員

市議会議員をさせていただいている。市議会議員以外に学校現場も含めて英会話教育や特別支援に関わってきた。それ以外では学校や幼稚園で働いていた。

(4)「未来を創り担うひとを育む」のところだが、子育てに関しては良いことが書いてあって非常にいいと思うが、これから子どもを産もうという人への視点をもう少し入れた方が良く思う。例えば不妊治療では、久留米市内で対応できる施設がすごく限られていて不便だと思う。そこを入れることで、不妊治療施設の増加に寄与できるのではないかなと思う。

それから教育のところになるが、外国人の受入れについては別項目で想定されているよ

うだが、久留米が国際社会で通用する人材育成というのがあまり入っていないように感じていて、バランスが悪いと思う。

次に(3)「つながり支え合う地域づくり」のところで、資料1の中の説明に、「外国人住民」と「海外にルーツがある」と2つの表現がある。厳密には意味が違うので、この言い換えは素晴らしいと思う。その上で、資料2の中の多文化共生に関する施策で、外国人が安全・安心で暮らすことが出来るという表現について、あくまでも日本人の安全安心があった上でのことだと思うので、「外国人も」という表現に変えていただきたい。

また、担当するつながりづくり部会からは外れてしまうが、外部から来られた方にJR久留米駅前の見た目が寂しいという意見をよくもらう。西鉄久留米駅前はとても賑わっているが、JRや新幹線を使う方からは久留米はこんなに田舎なのと言われる。久留米市が管轄している久留米駅と書かれている看板も電気が所々消えていて、玄関口としてどうかと思うので、こちらも発展させるような姿勢を組み込んでいただきたいと思う。

#### ○堺委員

市議会議員をさせていただいている。

私は、40代の子育て世代で中心部ではなく周辺部の田主丸というところに住んでいる。

市議会議員以外での仕事は行政書士をやらせていただいている。

10年程関西に住んでいたが、時刻表を気にしない生活というのも経験している。そういったものを経験したうえで地元の久留米に帰ってきている。

それを踏まえて話しをさせていただくが、この計画に関して思っていることは、事務局に作っていただいている素案があるが、現在の久留米市がやっている施策を文字にしたような内容になっている。今の施策がきちんと中に書かれていて、その延長線上にこのような施策が出てくるのだろうかと感じている。

今日の、各界の皆様のご意見を聞いていて感じることは、この行政職員が作られた素案をどの程度外部の方の意見を原案に取り入れていかれるのかというのが、今後分科会に分かれた時に我々がしっかり考えないといけないところかなと思っている。

今日の皆様のご意見は後ほど議事録で共有されると思うが、私がお伝えしたいことは、あくまでも行政は計画に基づいて事業を進めているということで、計画があっても10年後にその通りになってないことはあるかと思う。

先程イラストレーションで見える化していった方が良いのではないかというご意見があったが、それも大切なことだと感じた。

我々の立場は、自由に久留米のことを考えさせていただいて、現実にどれを落とし込んでいくのかということを残された数カ月でやらなければいけないことだと思っているので、構想に関しては勇気を持って描いていいのではないかと思う。

我々が作成させていただく計画は、行政職員も参考にするものであり、我々議員も参考にさせていただくものになる。計画に記載をしているのに施策として実行できていないのではないかなどの基になるものと思っている。

これからも国の補助金が毎年出てくると思うが、市としてそれを取りに行く場合と行か

ない場合がある。なぜ取りに行かないのかなど、そういったところにもこの基本構想や基本計画は関わってくる。

久留米市民の少なくとも過半数の方がこの計画なら 10 年後の久留米市は魅力があると思えるところまで皆さんと一緒に進めていきたいと思っている。

#### ○佐藤委員

皆さんの話や素案の内容を拝見して、本当によくできていると思ったのと、全部が人中心だということであらためて繋がっていくことが大事だと思った。

安全な暮らしのところから順に考えていったときに一人の人として「私が」「あなたが」という形で考えるともっとイメージが出来るのではないかと思った。

私は仕事や子どもに深く関わっているが、子どものところを見ると素晴らしい内容を書いていただいていると思うし、私たちもこれに則って頑張っていきたいと感じた。

久留米を好きになる「愛着」のところでは、一つは家庭が核になると思う。家庭の中で愛してもらって、支えてもらって、育ててもらおう。それから、その土地で人と関わっていく環境の中で愛着は生まれると思う。現在は家庭だけでは子育てが出来ないような環境もあるので、それを超えて地域で育てていくことが愛着を育てていく原点ではないかと思うので、そういったものを我々も地域の取組として実行していけたらいいなと感じた。

#### ○小田委員

久留米工業大学から参加している。

先程久留米市がデジタル化や情報化の面で遅れがあるという話があったが、私は工業大学の中で情報系の学部にいる。ICT 教育や現代教育等を行っているので、地域の大学としては、地域に貢献できるようなデジタル人材や DX 人材、それから AI で課題が解決できるのではないかと注目がされていることなどから、そういった地域の課題を解決できる若い人材をまずは育成したいと思っている。

今は学生たちが技術を身につけても、久留米で就職したり福岡に就職する学生も何人かはいるが、大半はせっかく地域で勉強していても東京など関東の方に出るという現実があるので、地域で働く場があり、自分が学んだ技術を活かして、久留米や近隣で働くような仕組みが出来るとより良いなと思った。

それが学生だけでは無く、例えば中高年の方や、一旦仕事を離れていた女性の方のリカレント教育という面でも、ICT 技術等を身につけると男女差別の無いような中で仕事することも可能になってくるのではないかと思う。

そういったことを大学と久留米市、それから皆さんのような方達と話し合いの場を設けて、人材育成等について考えていけたらいいなと思った。

#### ○永松委員

まちづくり振興会として参加させていただいている。

久留米市には小学校区で 46 校区あって、全校区に 1 つずつまちづくり振興会がある。

この総合計画を見てみると、まちづくり振興会は全ての分野でいろんな事業やイベントを行っている。

防災教育や人権教育、外国人実習生との交流会、学校のコミュニティスクールも令和8年度の開始に向けて準備をしていることなど、幅広く活動しているし、各校区においても努力をしている。

先ほど石井委員からもあったように、まちづくり振興会は住民の皆さんの力が無ければ運営できないが、今は65歳定年から70歳定年も見えてきていて、ボランティアの方がほとんどいなくなることを懸念しているが、この文章の中にはボランティアという言葉が出てこない。ボランティアや社会教育関係団体の方が継続的に役員になっていただいていることや、社会教育関係団体は高齢者が多い上に希薄化していることも踏まえると、社会教育団体をどのように育てていったらいいのかというところに力を入れていただきたい。

○荒井会長

事務局から何かあるか。

■事務局

本日いただいたご意見は、参考にさせていただきながら構想の素案の整理をかけた上でお示しをさせていただく。具体的な取組については、分科会の方で基本計画の骨子案についてご議論をいただくので、そういったところで検討させていただきたい。

(2) 分科会の設置について

■事務局より「分科会の設置」について資料③を用いて説明

≪質疑・応答≫

○山崎委員

基本目標の(10)「スマートな行政運営」はどこが統括するのか教えていただきたい。

■事務局

スマートな行政運営について分科会は設置していないが、全体会の中でご意見をいただければと思っている。

3 閉会

①次回は2月に第1回分科会を開催する。詳細は後日あらためて連絡する。

②本日の会議議事録は、事務局で作成し、委員に確認した上で公開したい。